

子どもを「授かる」



「子どもができない・・・」

結婚の喜びから一転、悩んでいるご夫婦もいらっしゃいます。

病院で不妊治療を受けているけど、なかなか結果が出ない・・・

薬の副作用で体調は悪くなる・・・

夫婦仲もどんどん冷めていく・・・ まさに悪循環です

「子宝相談」は漢方相談の中でも得意分野です。

もう、50人とは言わない赤ちゃんが誕生していると思います。

そんな中、先月、漢方相談7年、結婚10年目にして

待望の「我が子」を手にしたお客様がいらっしゃいます。

写真は、誕生5時間後！のツーショット(^0^)/

子どもができない・・・多くの方は産婦人科を訪れます。
排卵誘発剤、黄体ホルモン剤を服用し、排卵日にタイミングを合わせる。
それでもうまくいかないなら、人工授精、体外受精、顕微授精を施す。
それでもうまくいかないなら、代理母出産、精子ドナー・・・
めでたく妊娠がわかったら
出生前診断で染色体異常をチェックして産むかどうか決める。

考え方は人それぞれ、何を選択するかも人それぞれですので
どれが正解だとは言えませんが、東洋医学に従事する者としては

子どもは
「つくる」ものではなく、『授かる』もの

妊娠は「治療」ではなく「努力」だと考えます。
その努力も、
病院の不妊治療は「つくる努力」
当局の子宝相談は「授かる努力」

いったい何が違うのか？

つくる努力は、本人とお医者様との関係。
基礎体温などデータをもとに2者間で結果を出すことに努力していく。

一方、授かる努力は、本人と太田東西との間に、もう一人います。
その「3人目」のために環境整備に努力する。
しかし、それが難しい・・・
なぜなら、3人目は「目に見えない存在」だから。

「それは神様ですか？ ご先祖様ですか？」
「その3人目に必死に手を合わせることが、授かる努力ってことですか？」

いえいえ、確かに「神がかり」もあるでしょうが
太田東西が考える3人目とは
お母さんの子宮に宿るのを天空で待っている
「たましい」のことです。

お迎えする努力が、授かる努力です。

結婚10年にしてお子さんを授かったKさん夫妻。

最速で1ヶ月、長くて3年、平均半年～2年の漢方相談でのご懐妊が多い中、Kさん夫妻は真面目に7年間、授かる努力に頑張りました。

「続けることを続けてくださった」

そんな感じで、ほんとうに頭が下がります。

7年にもなると、いろんな思い出があります。

相談室で夫婦げんかにもなりました。奥さん、いっぱい泣きました。

ご主人には私と妻からダブルで「ダメ出し」したこともありました。

妻を喜ばせようと買って帰ったバラの花が、古くてすぐに枯れちゃって・・・

よかれと思ってやったことが、裏目に出ちゃったり・・・

奥さんには半身浴、靴下重ね履き、腹巻などで冷えを取ってもらいながら他人と比較しないこと、周りの目や声を気にしないこと、好き嫌いの激しい自分の考え方を思い変えていく努力、なるようになる！という開き直りなど7年の歳月で、プラス思考の生き方考え方をアドバイスしてきました。

そして、極めつけは・・・

親になる練習にと、Kさん夫婦に「里親」になることをすすめました。

殺処分の運命にある「捨て猫」の里親さんになることを。

結婚10年にもなると、夫婦の会話は新鮮味がなくなり、マンネリ化します。

仲は悪くはないけど、特別良くもない・・・みたいな

そこで、新しい家族を迎えてみる。

すると「ただいま～」「いってきま～す」

あいさつが声に出るようになる。エサをあげたり、排泄物の始末のお世話が「育児」の練習になる。

あれこれ夫婦で話し合うネタと時間が増える。

「育む」際に分泌されるオキシトシン（幸せホルモン）も増えて

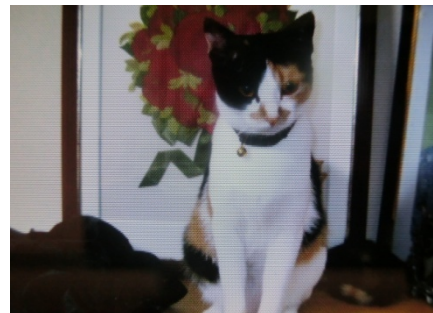
夫婦で「育む楽しさ」を実感する。必然、笑顔も増える。

迎え入れた猫の「ネネちゃん」

そのネネちゃんが来て3ヶ月後、

Kさん、見事ご懐妊！！

ネネちゃん、まさに「招き猫」です（笑）



体外受精にかかる費用1回およそ30万円
過去、それに1000万円費やしたお客様もいらっしゃいました。
Kさんの7年間(2500日)の漢方薬代およそ150万円。
体外受精5回分といったところでしょうか。

こればかりは価値観の問題ですので、どっちが良いか悪いか、高いか安いかが論じることはできませんが、

「つくる努力」では
結果が出ないと焦り、自信を無くし、夫婦仲が険悪になりやすい
「授かる努力」では
結果が出なくても、夫婦で環境整備に励むことで明るく元気になっていく

- ・夫婦が本音で向き合う
- ・自分の欠点短所に向き合う
- ・明るい家庭環境を整えていく

これこそが「授かる努力」だと考えます。

虐待、育児放棄が年々増加するご時世。
子どもを道連れに一家心中する家族、望まない妊娠、望まれない子ども。墮胎。

Kさん夫婦に何度も何度も言ってきたことは
「子どもを持った後に夫婦がいがみ合う不幸な生活をしていくのか、それとも子どもを授かる前に自分たちの問題点に気づき、夫婦ともに成長するか？
虐待する親は、不妊に悩むことなく妊娠出産したのかもかもしれない。
特に夫に父親としての自覚がない。親になれない未熟な親たち。

きっと2人は、“先に”勉強しているんだよ！
子どもがなかなか授からないことで
『どれくらい相手の立場になれるか？』
その夫婦仲が試されているんだと思う。

それを天空の子どものたましいが
じ〜っと見ているんだと思うよ！」



分娩室で記念撮影
ホント、よく頑張った！（涙）